

令和5年5月23日
北九州空港機能強化・利用促進特別委員会
(港湾空港局空港企画課)

目次 (報告/説明)

- 1 令和4年度 北九州空港の利用状況
- 2 北九州空港滑走路延長事業の新規事業化
- 3 北九州空港におけるダイバート（代替着陸）受入体制
- 4 北九州空港の国際旅客便の運航

令和4年度 北九州空港の利用状況

1 利用者数

令和4年度の利用者数の合計は、前年度比174.2%の838,792人となった。

	令和4年度 (人)		令和3年度	令和元年度
	利用者数	前年度比	利用者数	利用者数
利用者数合計	838,792	174.2%	481,505	1,579,108
うち国内線	836,661	174.0%	480,717	1,355,636
うち国際線	2,131	-	-	223,472

(1) 定期便 (国内)

国内線全体の利用者数の合計は、833,286人で、前年度と比べ352,569人増加した。

	令和4年度 (人)				令和3年度 (人)		
	利用者数	前年度比	提供座席数	利用率	利用者数	提供座席数	利用率
	(人)				(人)	(席)	
東京 (羽田)	833,286	175.1%	1,354,899	61.5%	475,818	899,526	52.9%
沖縄 (那覇)	-	-	-	-	4,899	18,600	26.3%
合計	833,286	173.3%	1,354,899	61.5%	480,717	918,126	52.4%

※令和4年度の沖縄 (那覇) 線の就航実績はなし。

(2) 定期便 (国際)

令和4年度国際線の就航実績はなし。

	令和4年度 (人)				令和3年度 (人)		
	利用者数	前年度比	提供座席数	利用率	利用者数	提供座席数	利用率
	(人)				(人)	(席)	
大連 (R1.8.17 就航 R2.2.8 運休)	-	-	-	-	-	-	-
釜山 (R2.3.8 運休)	-	-	-	-	-	-	-
ソウル (仁川) (R2.3.8 運休)	-	-	-	-	-	-	-
台北 (R2.3.11 運休)	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-

(3) チャーター便・臨時便

チャーター便は、国内ではスターフライヤーやフジドリームエアラインズによる直行チャーターが実施され、国際ではスターフライヤー（台北）、ジンエアー（仁川）のインバウンドチャーターが実施された。

臨時便は、那覇線及び羽田線の計12便運航したものの。

	令和4年度				令和3年度	
	利用者数 (人)	前年度比	就航便数 (便)	前年度比	利用者数 (人)	就航便数 (便)
国内	3,375	428.3%	54	317.6%	788	17
国際	2,131	—	14	—	—	—
合計	5,506	698.7%	68	400.0%	788	17

【今後の取組み】

・国内線は、昨年10月より開始した政府による全国旅行支援を契機として、全国的に航空需要が回復した。一方で、オンライン環境の整備によるビジネス需要の回復の遅れから、利用者数がコロナ前水準まで戻っていないことから、その減少分を補うため、特に首都圏を中心とした観光需要の取込みを強化していく。

・令和5年5月8日に新型コロナウイルスが5類感染症に位置づけられ、水際措置が緩和されたことに伴い、国際線についても旅行需要の回復が期待される。

・本年5月8日にジンエアーによるソウル（仁川）線が運航再開となったことから、今後、路線の安定化に向けて利用促進を進めていくとともに、引き続き、既存の定期国際線である韓国・釜山線や中国・大連線、台湾・台北線の就航再開を目指す。

2 エアポートバス利用者数

令和4年度の利用者数の合計は、前年度比136.3%の343,287人となった。

	令和4年度 (人)		令和3年度 (人)
		前年度比	
利用者数合計	343,287	136.3%	251,891

	令和4年度 (人)		令和元年度 (人)
		令和元年度比	
利用者数合計	343,287	54.5%	630,136

	令和4年度 (人)		令和3年度 (人)
		前年度比	
小倉線	182,958	157.0%	116,515
朽網線	125,441	111.3%	112,686
黒崎・折尾・学研都市線	34,888	153.8%	22,690

【今後の取組み】

・空港利用者数の増加に伴いエアポートバスの利用者数も増加したものの、コロナ前（令和元年度）と比べた場合は依然として低調である。

・引き続き航空旅客便に対応した運行ダイヤを設定するなど、利便性確保に努めるとともに、利用者増に向けた取り組みを行う。

3 貨物取扱量

令和4年度の実績は17,432トンで、世界の航空貨物需要の減少により、前年度比79.9%と減少した。

	令和4年度 (t)		令和3年度 (t)
		前年度比	
貨物取扱量合計	17,432	79.9%	21,819

※大韓航空の週4便の運航に加え、UPSが令和5年2月に週5便で就航したことで、輸送サービスが強化され、荷主企業の利便性が向上

	令和4年度 (t)		令和3年度 (t)
		前年度比	
国内	2,311	104.4%	2,214
国際	15,121	77.1%	19,605

【今後の取組み】

・今後も国際貨物をしっかりと取り込むとともに、定期便の定着・増便や新路線の誘致、貨物地区の整備などに取り組み、物流拠点化の推進に努める。

令和5年度 予算配分箇所表（空港整備）

[直轄+補助]

(単位：百万円)

区分	事業費	主要内容
(内地)		
国管理空港		
仙 台	545	庁舎改修、無線施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化、移転補償等事業等
羽 田	53,413	空港アクセス鉄道整備、人工地盤整備、浸水対策、耐震対策、滑走路改良、誘導路改良、エプロン改良、建築施設整備、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
新 潟	1,035	浸水対策、庁舎改修、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
広 島	1,940	浸水対策、滑走路端安全区域整備、エプロン改良、無線施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化等
高 松	412	滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化等
松 山	1,485	エプロン拡張、浸水対策、滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
高 知	2,597	浸水対策、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
福 岡	32,903	滑走路増設、CIQ施設整備、浸水対策、耐震対策、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化、教育施設・住宅防音工事補助等
北 九 州	2,247	滑走路延長、エプロン拡張、滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化等
長 崎	3,681	滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化等
熊 本	1,856	浸水対策、庁舎改修、無線施設整備、空港脱炭素化等
大 分	2,631	エプロン拡張、浸水対策、滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
宮 崎	1,701	浸水対策、耐震対策、滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
鹿 児 島	1,829	誘導路新設、浸水対策、誘導路改良、無線施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化、住宅防音工事補助等
会社管理空港		
成 田	3,555	庁舎耐震対策、無線施設整備等、環境整備事業
中 部	897	庁舎改修、無線施設整備、気象施設整備等
関 西	2,777	庁舎改修、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備等
伊 丹	1,991	庁舎改修、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備等
特定地方管理空港		
秋 田	649	滑走路端安全区域整備、滑走路改良、無線施設整備、照明施設整備、気象施設整備、空港脱炭素化等
山 形	366	滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化等
山 口 宇 部	39	無線施設整備等
地方管理空港		
青 森	758	滑走路改良、誘導路改良、無線施設整備、照明施設整備等
花 巻	761	滑走路端安全区域整備、滑走路改良、誘導路改良、エプロン改良、無線施設整備、照明施設整備等
大 館 能 代	449	滑走路端安全区域整備、無線施設整備、照明施設整備、空港脱炭素化備

北九州空港滑走路延長事業

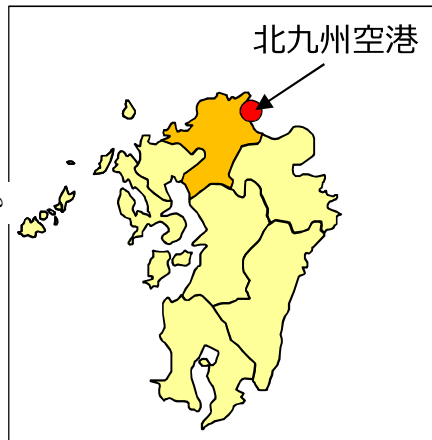
令和5年3月31日 国交省プレスリリース資料
令和5年度予算国土交通省関係予算の配分について
「報道発表資料」より抜粋

【課題・背景等】

○北米・欧州との航空貨物需要が背後圏で見込まれる北九州空港において、滑走路延長事業（2,500m→3,000m）を行い、長距離国際貨物機の定期便就航を可能とすることで、国際貨物輸送の拠点機能を強化し、我が国の製造企業の国際競争力向上等に資する。

事業内容

令和5年度配分額(事業費): 11.9億円



○事業期間：令和5～9年度（予定）

○総事業費：約130億円

○令和5年度事業内容：
設計、用地造成、滑走路整備

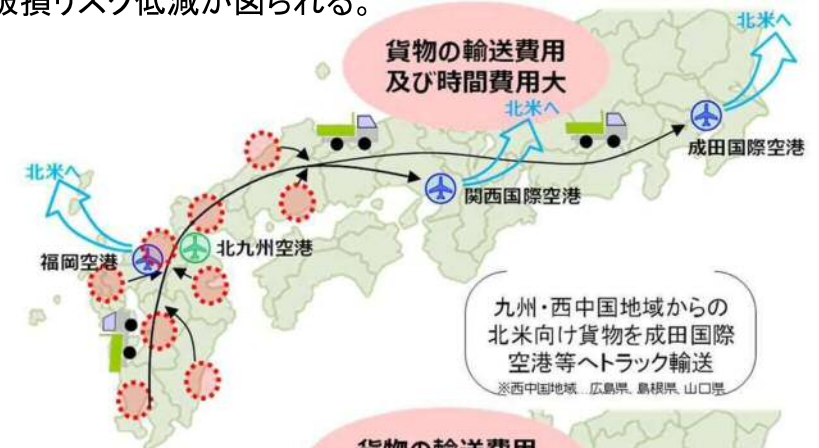
滑走路延長のイメージ



効果

- 北九州空港背後圏の国際航空貨物は、北米では輸出79%・輸入81%、欧州では輸出85%・輸入51%が成田国際空港等を利用しており、陸送に係る料金は約4～6倍、時間は約7～12倍、距離は約8～14倍の損失が発生している。
- 本事業により、国際航空貨物の輸送費用・時間費用が低減されるとともに、物流の速達性向上や輸送中の精密物品（半導体等）などの破損リスク低減が図られる。

滑走路延長前



滑走路延長後



北九州空港におけるダイバート(代替着陸)受入体制

【検討のきっかけとなった事例】

- 1 対象便 JAL331便(令和5年2月19日)
定 刻： 羽田18:30発⇒福岡20:30着
搭乗者数： 335人
使用機材： A350(定員:369席)

2 経緯

- ・羽田付近の強風や機材繰りの影響で出発が約1時間半遅れた。
- ・結果、午後10時までの福岡空港の利用時間内に着陸できなかった。
- ・北九州空港への着陸も検討したが、乗客(335名)が多く、目的地(福岡市内)までの交通手段の確保が困難であった。
- ・よって、関西空港に緊急着陸し、燃料を給油した上で、羽田空港に引き返した。

今後、同様の事案が発生した場合に、北九州空港で受け入れることができるよう、交通事業者等関係機関のネットワーク体制の構築を図る目的で、以下の会議を開催。

【第1回ダイバート受入体制検討会議】

1 概要

日時 令和5年4月14日(金) 14時~15時

場所 北九州市役所 大集会室

主催 福岡県・北九州市

参加者 【計26団体】

航空会社、バス・タクシー事業者(12団体)、

宿泊事業者(4団体)、

空港ターミナルビル、旅行会社、

行政(福岡県、北九州市、苅田町、国土交通省大阪航空局北九州
空港事務所、同九州運輸局福岡運輸支局)

- 2 検討内容 ダイバート後の乗客の交通手段等の確保
(特に夜間帯の福岡空港の利用時間制限に係るケース)

- (1)北九州空港へのダイバート発生時の行動モデルを参加者で共有、意見交換
 - ・航空会社が、当該機の乗客を北九州空港から当初目的地(福岡)まで送り届ける交通手段等(バス、タクシー、困難な場合はホテル)を手配する。
 - ・交通手段等については、特定の少数の事業者だけで担うことは困難、地域のより多くの事業者到手配のネットワークに入ってもらわなければならない。

(2)上記ネットワークへの協力事業者名簿を作成するため、各事業者に緊急連絡先等の情報提供を依頼。

3 会議後の現状と今後の見通し

- ・5月15日現在 協力事業者数 120社
(バス事業者 9社、タクシー事業者 100社、宿泊事業者 10社、旅行代理店 1社)
- ・以上の協力事業者名簿を航空会社に提供し、ダイバート発生時の交通手段等確保に備えている。
- ・受入体制は今後、精査し、さらに多くの交通事業者等に協力を呼び掛け、充実を図る。

ダイバート受入体制の構築により、24時間空港としての北九州空港のポテンシャルを一層発揮させ、ひいては利用促進につなげてまいりたい。

北九州空港国際旅客便の運航

新型コロナウイルスの世界的な流行に伴い、北九州空港の国際線については、令和2年3月11日以降全便運休となっていたが、昨年10月の水際対策緩和を受け、就航に向けて航空会社との協議や空港での受け入れ準備について、関係機関と協議を行ってきた。その結果、3年2か月ぶりに以下のとおり定期便が運航再開した。

1 北九州—ソウル(仁川)線の運航再開

(1)運航会社

株式会社ジンエアー

(コロナ禍前に定期便を最大1日2往復(運休直前は週3往復)運航していた実績有
(H28.12.13~R2.3.6))

(2)運航再開日

令和5年5月8日(月)

(3)運航便数

週4往復(月・水・金・日)

(4)運航ダイヤ

北九州着08:40 ※ソウル(仁川)発07:15

北九州発09:40 ※ソウル(仁川)着11:15

(5)座席数

189席

(6)歓迎イベントの実施

再開当日は、福岡県副知事や武内市長、駐福岡大韓民国福岡総領事館経済担当領事をはじめ、本市議会鷹木議長、日野北九州空港機能強化・利用促進特別委員会委員長や近隣市町村の首長など約30名の来賓をお迎えしテープカットやくす玉割を行い、関係者皆で盛大に定期便の復活を祝った。

また、到着便には歓迎放水を実施するとともに、到着ロビーにて搭乗客の歓迎イベントを実施し、関係各自治体職員や空港関係者がお客様をお出迎えした。



【就航記念式典の様子】



【歓迎放水の様子】



【韓国人入国者への歓迎のおもてなし】

2 武内市長の韓国訪問トップセールス・姉妹都市仁川市訪問について

5月8日に運航を再開したソウル（仁川）線の初便に搭乗し韓国を訪問。運航を再開した航空会社・ジンエアー本社を訪問してのトップセールスや、姉妹都市である仁川広域市長との意見交換を行った。

3 北九州—ソウル(仁川)線の今後の見通しについて

6月29日（木）からジンエアーのソウル（仁川）線のデイリー化（1日1往復）が予定されている。また、武内市長のジンエアー本社訪問時、1日2往復の就航を要請、ジンエアーからは機材の調整を考慮して前向きに検討するとの回答を得たところ。

4 チャーター便の就航について

また、新規で、韓国との間で以下のチャーター便が就航することとなった。

この航空会社は、初めての国際線就航先として北九州空港を選択し、韓国・務安空港発のみのインバウンドチャーターを行うもの。

5月9日に武内市長が同社を訪問し、トップセールスを行った。

(1)就航会社

株式会社ハイエア（韓国）

(2)就航先

韓国 務安空港⇄北九州空港

※務安空港について

- ・韓国南西部全羅南道（道庁：光州市）に位置。
- ・背後圏約300万人（全羅南道及び全羅北道）・24時間空港

(3)就航便数

週5往復（月・水・木・土・日）

(4)期 間 5月24日～8月30日

(5)運航ダイヤ

北九州着 13:30 ※務安発 12:00
北九州発 14:10 ※務安着 15:50

(6)座席数

50席（最大乗客数72名）

5 その他

今後も海外からの旺盛な訪日旅行需要を背景に、旅客のV字回復に向けて、以前就航していた路線の復便や新規開設に積極的に取り組むことで、市内経済の活性化に寄与してまいりたい。